

## 基幹相談支援センターしゃきょう事業報告について

## 1 基幹相談支援センター主催研修会

開催時期	講師・テーマ	参加人数
10 月	「意思決定支援～現場でのジレンマに向き合おう～」尾張東部権利擁護支援センター 住田 敦子 氏 ※地域共生社会推進研修会として基幹型地域包括支援センターと共催	45 人

## 2 障がい者虐待防止研修

開催時期	講師・テーマ	参加人数
6 月	「障がい者虐待防止について」 日本福祉大学 福祉経営学部 綿 祐二 氏 ※基幹相談支援センターしゃきょう研修として開催	38 人
10 月	「障がい者虐待防止について」 日本福祉大学 福祉経営学部 綿 祐二 氏 ※基幹相談支援センターしゃきょう研修として開催	43 人

## 3 相談支援専従事者 初任者研修・現任研修インターバル対応

相談支援専門員育成のため、研修受講生に対し、演習課題についてグループワーク等を通して助言を行った。

内容		参加人数
初任者研修	・演習課題（社会資源調査票）についての助言 ・インテーク、アセスメント、プランニング、地域理解についての助言	8 人
現任研修	・春日井市の相談支援体制、地域自立支援協議会、新たな社会資源、多機関連携 等について ・ケースについての助言	8 人

4 その他

- (1) 計画相談マッチング業務（指定特定相談支援事業所とサービス利用者との調整業務）

- (2) 意思決定支援会議の実施

ある障がい者グループホームにて、指定取り消し・更新が不可能になり、新規運営法人への事業譲渡が決定したことを受け、利用者がこれまで通りホームでの生活を継続するか否かの意思を確認・推定し、現在の生活が本人主体に基づく支援になっているかという点について支援者が参集し協議した。

対象者は春日井市が支給決定しているケース 7 件の内 4 件。

※令和 7 年 4 月に残りの 3 件も実施 済。

- (3) 相談支援事業所巡回訪問

相談支援体制の充実、地域課題の抽出を目的に地域アドバイザーと共に巡回訪問した。21 事業所。

抽出された地域課題については別紙参照。

※令和 7 年度も新規事業所を加え、巡回実施予定。

## 指定特定相談支援事業所からの地域課題について

訪問期間：令和6年6月から令和7年3月まで  
訪問事業所数：20 事業所

### 《ヘルパー不足》

- ・土日、朝、夕方のヘルパーが見つかりづらい。
- ・駐車場のない自宅のヘルパーが見つかりづらい。
- ・育児支援（保育園への送迎など）は制度としてはあるが、片道支援のため引き受けてもらえる事業所が見つからない。
- ・移動支援のヘルパーが見つかりづらい。
- ・人員不測のため突然支援ができないと言われることがある。
- ・障がい特性を理解していないヘルパーもいる。

### 《医療的ケア児者への支援の不足》

- ・医療的ケアの方のショートステイ先がない。（病院にはレスパイト入院を断られた。）
- ・医療的ケアが必要となるとGHを出ないといけないケースがあり、対応ができる事業所が限られるため、次の行先探しに困っている。

### 《支援の偏り》

- ・行動障がいの人の居場所が少なく、事業所も思いはあってもスキル等が身につけていない。
- ・重度の児童（小牧特別支援学校在学児）の将来の行先となる受け皿（生活介護等）の選択肢が少ない。

### 《支給決定・制度の課題》

- ・療養介護の場合、自宅に一時帰宅した際にヘルパーが利用できず、自宅に帰ることを断念することがある。
- ・短期入所の支給決定について、一度延長をしてもらったが、繰り返しの利用が認められない。市からは入所を勧められるが、児の年齢であるため両親も決断ができない。個別の事情をくんでもらうことが難しい。
- ・介護保険サービスに移行するケースにおいて、サービス利用料の自己負担の発生が課題になる。

### 《就労に関する課題》

- ・就労B型も昼食が無料ということを目的に通所している人がいるので、本来の目的が見失われている。
- ・A型事業所の数が少ない。作業内容が合わずつながらない。

### 《支援の難しさ》

- ・本人のことを内緒にしておきたい家族が一定数いる。近所に知られるため、事業所の入っている車で訪問できない。訪問看護を入れたいが、進まないこともある。
- ・受給者証の意味や意義を理解していない人が一定数いる。
- ・利用者家族の高齢化で、親亡き後が心配なケースが増えている。子どもと一緒に3人で施設に入りたいという要望が増えている。

### 《子どもの支援の課題》

- ・母子保健・学校・障がいの領域が曖昧になっていると感じる。結果的に本当に必要な児童が適切な療育を受けられない現状がある。診断がなくても支給決定が降りてしまうことが助長させているのではないか。
- ・発達障害児の受け皿は多すぎるくらいと感じる。視覚障害の児童が「動き回る子が多くて危ないから」といって断られた。
- ・放課後デイサービスを利用している児童について、保護者の都合等により夕方遅い時間までの利用をさせてほしい、または土日の利用ができる所がほしいという要望が多い。（児サービスから切り替わる時に保護者は戸惑う。）
- ・放デイや児発は併用するもの・週5使うものと認識している親が多く、必要性について親へ伝えていく必要があると感じている。
- ・児発・放デイについて、習い事感覚での利用が増えた。宿題や勉強をすることを求めている親も多い。
- ・不登校支援のための社会資源が増えると良い。
- ・特別支援学校について、1年2年は授業時間が早く終わるため、親が学校まで迎えに行かなければならないが、母の病気等で迎えに行けないため通うことができない状況の児童がいる。遠方のため送迎してくれる事業所もない。